

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

実施機関名（ 岡山県 ）

1. テーマ

すべての子どもが「わかった」「できた」と感じる授業づくり
 ー授業のユニバーサルデザインの考え方を取り入れた効果的な一斉指導と学力向上を目指す個に応じた支援の在り方についての研究ー

2. 問題意識・提案背景

平成24年度の岡山県調査では、通常学級に在籍し特別な支援が必要であると考えられる児童生徒の割合が、小学校では9.5%，中学校では6.7%と平成20年度調査に比べ大幅に増加している。こうした状況から「通常学級における特別支援教育」の必要性は高まっており、赤磐市内の学校においても、障害理解や環境整備等が進められてきた。

赤磐市立桜が丘小学校でも、通常学級において特別な支援が必要な児童が増加していることから、校内研究の一つに特別支援教育を位置づけて、落ち着いた環境整備やわかりやすい指導方法等の研究を続けてきた。

本事業を受けるにあたっては、通常学級において支援が必要な児童生徒の状況を確実に把握することが重要になる。学級の状況と個々の児童の実態を的確に把握することで、効果的な一斉指導や個別の支援の在り方の具体的な方法を検討することができ、研究テーマに迫るのではないかと考える。

3. 指定校について

（小学校の場合）

指定校名：岡山県赤磐市立桜が丘小学校												
学級数及び児童生徒数												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	45	2	52	2	53	2	44	2	60	2	54	2
特別支援学級	0		3		3		0		2		5	
通級による指導の対象者数	1		0		1		4		0		0	
教職員数												
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	施設管理員	スクールカウンセラー	その他	計		
1	1	18	1	3	0	1	1	0	2	28		

4. 指定校における取組概要

(1) 児童の実態把握

(ア) アセスメントの実施

平成26年5月に全校児童を対象に岡山県総合教育センターが作成したアセスメントを実施した（1年生は7月）。結果の分析や今後の取組については、県総合教育センターから助言をいただいた。

(イ) 個別の指導計画の作成

アセスメントの結果や日々の学習の状況から、通常学級において個別に支援が必要な児童について、個別の指導計画を作成した。作成に当たっては、事前に研修会を開催し、その意義や活用方法を明確にした。

(2) 指導方法の改善

(ア) 授業のユニバーサルデザインの研究

先進校視察や講師による研修会を重ねることで、教職員が授業のユニバーサルデザインについて共通理解を図っていった。それと並行して、2学期からは具体的に授業を実施し、「視覚化・焦点化・共有化」の視点でどのような指導方法がより効果的なのかを検討した。

(イ) 発達障害支援アドバイザーの配置による授業改善

桜が丘小学校に発達障害支援アドバイザーを1名配置し、授業改善や個別支援の方法について助言を行った。9月からは、1日のうち数時間は学級を巡回し、放課後に授業についての助言を行う等、授業のより効果的な進め方や支援の在り方について、指導を続けた。

(ウ) 学習支援員の配置による個別の支援

学習支援員を配置し、一斉授業の中で個別に支援が必要な児童に対して支援を続けた。（個別に声かけをする。ヒントを与える。一緒に活動に取り組む等。）

(3) 市内の学校への共有

学校の授業研究会や研修会には、市内の幼稚園、小、中学校に案内を出し、研修を深めた。また、発達障害支援アドバイザーが、市内の学校を訪問するようにした。

5. 主な成果

(1) 多面的な児童の実態把握

岡山県総合教育センター作成のアセスメント実施により、学年・学級の児童の実態把握を行うことができた。また学力調査の結果や児童アンケートの結果も活用して総合的に児童の実態を把握することができた。

(2) 指導方法の工夫と改善

(ア) 個別の支援の明確化

1時間の授業の中で、個別の支援が必要な児童に対して必要な支援とその方法を授業者が考えるようになった。研究授業においては、教師の支援として指導案に位置付けた授業を展開した。

(イ) 授業のユニバーサルデザインを意識した授業の展開

授業の目標・内容・活動を焦点化することにより、1時間で学ぶ内容をより明確にしていっていった。また、効果的な板書や掲示物の利用により、視覚化を図ることができた。さらに、1時間の授業の中にペアトークやグループ学習、ギャラリーウオーク等を取り入れてお互いの考えを共有化することができた。

(ウ) 児童の変容

教師が授業を工夫することにより、児童にも変化が見られるようになった。まず教師の指示が明確になったことで、活動にスムーズに取り組めるようになってきた。書いたり話したりする活動にも進んで取り組むことができ、授業が活発に行われるようになった。とくにノートを適切に取ることができる児童が増えたのは大きな成果である。

(3) 校内支援体制の確立と市内の学校への共有

校内の研究推進委員会と発達障害支援アドバイザーが密接に連携することで、日々授業の改善につなげることができた。また学習支援員の配置により、個に応じた学習支援を行うことができた。

また、発達障害支援アドバイザーが市内の学校を訪問して職員への指導を行ったり、桜が丘小学校の研究の様子を紹介したりすることで、市内の学校で成果を共有することができた。

6. 今後の課題と対応

(1) 授業のユニバーサルデザイン化を進めるための課題

(ア) 児童が授業に「参加」すること

1年間の取組で教職員の間に、授業のユニバーサルデザインについての理解が進むにつれ、日々の授業が変わり、視覚化・焦点化については、一定の成果が表れたと感じている。しかし、すべての児童が授業に「参加」するという点においては課題が見られる。「参加」の部分が充実するためには、安定した学級経営が必要であり、授業の中でのさらなる人間関係づくりが必要となる。今後は、「焦点化・視覚化・共有化」を中心とした授業のユニバーサルデザイン化をさらに進めるとともに、「参加」についても、個別の支援と関連付けながら研究を進めていく。

(イ) 予習学習を進めること

授業実践を重ねることで、授業のユニバーサルデザイン化を支えるものとして「予習学習」の重要性が明らかになってきた。予習学習を行うことで、すべての児童が「わかった」「できた」と感じる授業づくりができるのではないかと考える。「予習学習」については、桜が丘小学校の授業のユニバーサルデザインとして、意味ややり方について研究を進めていく。

(2) 実態把握に基づいた個別の指導計画の作成

児童の実態把握を継続的に続けていくが、個別に支援が必要な児童についての、個別の指導計画の作成と効果的な活用については、今後の課題となっている。個別の指導計画を一斉授業や学習支援員の支援に位置付けていくかについても研究を進めていく。

7. 問い合わせ先

組織名：岡山県

- (1) 担当部署 岡山県教育庁特別支援教育課
- (2) 所在地 岡山県岡山市北区内山下二丁目4番6号
- (3) 電話番号 (086) 226-7912
- (4) FAX 番号 (086) 224-0612
- (5) メールアドレス tokubetu@pref.okayama.lg.jp

組織名：赤磐市

- (1) 担当部署 岡山県赤磐市教育委員会 学校教育課
- (2) 所在地 岡山県赤磐市下市337
- (3) 電話番号 (086) 955-0972
- (4) FAX 番号 (086) 955-6060
- (5) メールアドレス gakkokyoiku@city.akaiwa.lg.jp